

安寧



兵庫縣姫路護國神社報
 「安寧」第三十一号
 発行所 兵庫縣姫路護國神社
 〒650-0033 姫路市本町二一八
 電話〇七九一三四一〇八九六
 安寧(あんねい)世の中が穏やかで平和なとこ

ホームページアドレス <http://www.himeji-gokoku.jp/>

英霊の言乃葉

最後の便り

海軍中尉 小川 清命

神風特別攻撃隊第七昭和隊
 昭和二十年五月十一日
 南西諸島方面にて戦死
 群馬県出身 二十四歳

父母上様

お父さんお母さん。清も立派な特別攻撃隊員として
 出撃する事になりました。思へば二十有余年の間、父
 母のお手の中に育つた事を考へると、感謝の念で一杯
 です。全く自分程幸福な生活をすごした者は外に無い
 と信じ、この御恩を君と父に返す覚悟です。

あの悠々たる白雲の間を越えて、坦々たる気持で
 私は出撃して征きます。

生と死と何れの考へも浮びません。人は一度は死する
 もの、悠久の大義に生きる光栄の日は今を残してあり
 ません。

父母上様もこの私の為に喜んで下さい。

殊に母上様には御健康に注意なされお暮し下さる様、
 なほ又、皆々様の御繁栄を祈ります。清は靖國神社に
 居ると共に、何時も何時も父母上様の周囲で幸福を
 祈りつつ暮してをります。

清は微笑んで征きます。出撃の日も、そして永遠に。

(昭和六十二年五月靖國神社頭掲示)

※P5シリーズ英霊の戦場(二十二)で紹介



令和五年 秋季例大祭 齋行

十一月二日 午前十時三十分

雲一つない秋晴れのもと、雅楽の音色の中、宮司以下神職並びに三木英一大祭委員長・三宅崇敬奉賛会会長・北浦兵庫県遺族会会長・釜谷崇敬奉賛会副会長が拝殿に参進、祭典が始まった。



宮司玉串拝礼

境内にはご祭神と所縁深い管内のご遺族を始め、ご来賓・当社ご崇敬の方々約四百名が祭典を見守った。

支部・播磨青年部によって点てられた美しいお抹茶とお菓子が供えられた。
宮司が祖国の安寧を願う祝詞を奏上した後、大祭委員長・崇敬奉賛会会長・兵庫県遺族会会長により祭文が奏上された。その後、姫路市民合唱団の奉仕により上皇后が作詞を手掛けられた「ねむの木の子守歌」、「ゆりかごのうた」が奉唱され、優しく穏やかな歌声で「英霊のみたまをお慰めした。」

境内にはご祭神と所縁深い管内のご遺族を始め、ご来賓・当社ご崇敬の方々約四百名が祭典を見守った。
宮司がご英霊の鎮まる本殿の御扉を開扉し、市内農区・有志の方々が奉納されたお米、海川山野のお供えがご神前に捧げられた。また、茶道裏千家淡交会播磨



姫路市民合唱団による歌の奉納



献茶奉納

晴天が続いた 正月・新年万燈祭

元旦〜十日

甲辰の年明けが本殿の太鼓の音で告げられた。境内二千灯の提灯には順に灯が灯り、初詣に訪れた参拝者が一斉に祈りを捧げた。

天候に恵まれた三が日には前年より多くの参拝者が訪れた。最も縁深いご祭神のご遺族は家族揃ってご参拝になり、提灯の下でご祭神を偲び手を合わせた。元旦の昼頃には鳥居の外まで参拝を待つ人たちの列が伸びた。



境内を埋め尽くす二千灯の提燈



鳥居外まで延びる参拝者の列



社頭の賑わい

崇敬奉賛会 新年祈願祭

一月八日

皇紀二六八四年令和六年一月八日、快晴の穏やかな天候に恵まれ、新年祈願祭が挙行された。参加した崇敬奉賛会の会員諸氏六十一名は、新年万燈祭の提灯の華やかな境内のなか、午前十一時より本殿において祭典を行った。国家の安泰、兵庫縣姫路護國神社（以降、護國神社と記述）の隆昌と崇敬奉賛会の発展、会員の健勝を祈った。

今年の干支は、甲辰（きのえたつ・こうしん）の年。干支学によると、頽廃・混乱した状況から新しい芽が殻を破って出てくる年とされている。これまで

ていた直会に移り、会員の親睦と懇親を深めた。国歌斉唱の後、護國神社音楽隊による清興が行われた。歌は西尾裕美氏、ピアノ伴奏尼子美保氏。『二月一日』を参加者で合唱し、お正月気分を盛り上げた。合間には、ドラマ「坂の上の雲」の主題歌『Stand Alone』、朝ドラで人気の『東京ブギウギ』を演奏、最後は参加者全



の混乱を治め、正しいことを一歩ずつ積み重ねていけば、良い年になると示されている。これらのことも念頭におきながら、参拝をした。また、境内では、成人の日にふさわしく振袖姿の新人や一般の参詣者で賑わっていた。引き続き、十一時五十分からは、場所を参集殿二階にて、コロナ禍で中断し



歌は西尾裕美氏、ピアノ伴奏尼子美保氏

式典が催行され二百名あまりの人が参列しました。祭典終了後、泉宮司は「本日は、よりよき伝統を守り続けてきた英霊は元より、ご先祖に感謝し日本の歴史を振り返る有意義な一日にしてほしい」とお話しになりました。奉祝式典では、榎原神宮遙拝などが行われ、最後には姫路のご当地アイドルグループ「姫つ娘」のあやかさん（13歳）がマイクを持ち「紀元節」の歌

建国祭

二月十一日
(建国記念の日)



二月十一日は建国祭と奉祝式典が催行され二百名あまりの人が参列しました。祭典終了後、泉宮司は「本日は、よりよき伝統を守り続けてきた英霊は元より、ご先祖に感謝し日本の歴史を振り返る有意義な一日にしてほしい」とお話しになりました。奉祝式典では、榎原神宮遙拝などが行われ、最後には姫路のご当地アイドルグループ「姫つ娘」のあやかさん（13歳）がマイクを持ち「紀元節」の歌



一月一日を唄う員で『ふるさと』を歌って締めくくった。その後は、各テーブルより代表者を選び、新年の誓いや一年の抱負を述べる機会が設けられた。代表者たちは、日本国や護國神社、家族への自分の思いのたけを述べられ、聞いたいた参加者は、その考は盛会のうちにお開きとなった。四年ぶりの直

二月二十三日、今上陛下の六十四歳の御誕生日をお祝いして、天皇陛下のご長寿とご皇室の安泰を祈念する天長祭が行われた。前日まで降り続いた雨も上がり、ときおり薄日も射すような天気の中ではあつたが、午前十一時より厳肅な雰囲気で行なわれた。泉宮司による祝詞奏上では、陛下のご長寿と共に我が国と国民の安寧を祈念していただいた。引き続き参集殿にての直会では、能登地震の被災者への黙祷ののち、三木英一総代会長がご挨拶の中で天長節の歌をご紹介くださり、戦前の様子を教えてくださいました。崇敬奉賛会の三宅知行会長の発声

天長祭 二月二十三日(天皇誕生日)

三木会長は講演の中で「日本ほど素晴らしい国は世界にそうない、そのことを現在の子供達は知らない、それを知れば日本に生まれたことにもっと感謝できるのに」と言われていました。この他にも参集殿の二階では「建国を祝う会姫路実行委員会」の三木英一会長による「三大神勅と神武天皇のご即位」と題した講演が行われました。「天壤無窮の神勅」などの解説がなされて、皆が神勅の意味を理解したところで、参加者一同で三大神勅を朗唱するという場面もありました。



二月二十三日、今上陛下の六十四歳の御誕生日をお祝いして、天皇陛下のご長寿とご皇室の安泰を祈念する天長祭が行われた。前日まで降り続いた雨も上がり、ときおり薄日も射すような天気の中ではあつたが、午前十一時より厳肅な雰囲気で行なわれた。泉宮司による祝詞奏上では、陛下のご長寿と共に我が国と国民の安寧を祈念していただいた。引き続き参集殿にての直会では、能登地震の被災者への黙祷ののち、三木英一総代会長がご挨拶の中で天長節の歌をご紹介くださり、戦前の様子を教えてくださいました。崇敬奉賛会の三宅知行会長の発声

この他にも参集殿の二階では「建国を祝う会姫路実行委員会」の三木英一会長による「三大神勅と神武天皇のご即位」と題した講演が行われました。「天壤無窮の神勅」などの解説がなされて、皆が神勅の意味を理解したところで、参加者一同で三大神勅を朗唱するという場面もありました。

和プロジェクト

「世界平和の祈り」9月21日



で乾杯した。兵庫縣姫路護國神社に祀られている御英霊の生きられた時代とは大きく変わったが、大切に伝えていくべきものは、このような祭事の中にあるのだと感じさせられた。伝えていくべきものをお互いが意識をしながら、次世代のために何を残していくのか。百二十六代と連綿と続く天皇の歴史を振り返ると、我が国にしかないものを見つげることができているのではないかと考えさせられるひと時でもあった。



姫路隊友会の三枝副三会長による日の丸を通しての聖壽万歳、中締めのご挨拶は崇敬奉賛会の釜谷副会長から次世代に送る熱い思いを伝えていただいた。皇居ではあいにくの雨の天気となったが、ひさしぶりとなった一般参賀に多くの国民が参集した。

(文責 崇敬奉賛会 常任理事 木南 一志)

「平和への祈りをこめて」

賢明女子学院高等学校書道部 顧問 山本 めぐみ

世界平和の日である九月二十一日は本校の学院祭と日が近いので、学院祭で披露するパフォーマンス作品の練習と同時進行で鍛錬しております。学院祭では、見た目の華も必要で、大きな動きで魅せますが、神社での奉納は、厳かな雰囲気込まれて書の精神に向かい合い、全世界の人々の平和と安寧を祈りつつ、粛々と書かせていただく経験となっております。書く時の思いや祈り美しい世界への願いなど、内面と書表現が一体になる感覚は何ものにもかえがたい、素晴らしいものだと感じております。

今回の奉納は、本番で雨が降るとの予測の中、初めて本殿の中の石畳の上で書かせていただきました。このような大切な場所を汚してしまつたらどうしようと、準備不足を痛感しつつ、どんな時にも対応できる人になれるための試練とも感じました。二足の草鞋をはいたような練習の仕方ではなかなか満足いくまで集中してできない現状の中、本番は、練習した中でも、一番達成感のある仕上がりになりました。書き上げた後には、これは若くして亡くなられた御英霊が、力をかして下さっているのでは? ということも感じます。



今年度は、すべて隷書を用いて書くという初めての挑戦をし、隷書でまとめ上げるプレッシャーにも耐え、恐れるものもはねのけて取り組み、皆で団結していました。文章も部員で企画し考え、堂々と表現できました。心を通じあわせて、それぞれが競いながら、時間のない中ひたすらギリギリまで練習し思いをこめました。

内面を磨き、素敵な人生の中の輝く一つの経験となり糧となるような場に招いて下さり、本番前には練習やリハールもさせていただき、快く温かく見守って下さり感謝いたしております。平和が恒久に続きますことを祈ってやみません。

県立太子高等学校書道部 顧問 豊國 恵子

本年度も国際平和デーである九月二十一日に、本校の書道部員たちはJコーラス部の合唱に合わせて、「協和万邦」という四字を揮毫させていただきました。

部員たちは練習のときから、「私たちの周りは平和なのか」「平和とは何か」「平和を祈る中で自分たちは何ができるのか」と考えながら、一所懸命に書いておりました。そして、自分たちの「書」の中に「平和への祈り」を織り交ぜられるよう書き込み、当日に臨みました。

当日、部員たちは非常に緊張しつつも、この場所で揮毫ができる有り難さに感謝し、準備をしました。天候に不安があったため、ご本殿内での奉納揮毫となりました。非常に厳かな空気を感じながら、書道部は一面ごとに平和への祈りを込めて真剣なまなざしで筆を運びました。また、Jコーラス部の歌声も響き渡り、世界へ平和の祈りが届いたように感じました。

「書」を通じて、若い世代が平和への思いを馳せる機会をいただけたことに感謝いたします。

県立太子高等学校Jコーラス部 顧問 川本 力

令和五年九月二十一日「世界平和の祈り」に参加させていただきましたありがとうございます。全国の書道家の方と各都道府県の書道部のみなさんの平和揮毫と共に、歌を奉納するという、とても貴重な経験をさせていただきました。

今回、ジョン・レノンのイマジンの歌詞とメロディーに触れ、歌う中、生徒達の表情に変化がありました。これからの未来を生きていく高校生が大人になっていく、その過程で、世界について、平和について考えるということとは本当に大事なことだと感じました。奉納揮毫前に、泉宮司のお話を聞いて、自分たちが生まれる前に亡くなっていた方々のことを知り、考えることよってまた、生徒たちの意識と表情が変わっていききました。子どもたちが、世界に触れ変化し、未来に繋いでいく。このご縁を頂いたことに改めて感謝いたします。



シリーズ 英霊の戦場 (十二)

郷土の特攻隊員

米空母を任務放棄させた

安則盛三海軍少佐



零戦を背景に立つ安則盛三中尉。
特攻出撃の直前、1945年5月10日頃の
写真と思われる。

安則盛三海軍中尉（戦死後少佐）は上郡町出身の神風特別攻撃隊第七昭和隊の第三小隊長として部下五名を率いて昭和二十年五月十一日、沖繩方面に襲撃した空母五隻基艦の高速空母艦隊に対して出撃し、艦隊旗艦の制式空母バンカーヒルに部下の小川少尉機と共に突入に成功し大損害を与え、同艦は任務を放棄して本国に帰航した。安則少佐は日記や手紙等が残っていないので、米国の戦史研究者が著した書籍「特攻」と安則盛三氏を唯一知る甥の安則明稔氏の証言を基に実像に迫る。

■ 生立ちと軍人への道

安則少佐は大正十三年三月十八日父政之助、母スギの六人兄弟の四男として上郡町に生まれる。幼少から性格は穏やかで口数も少なく健康で勉

学優秀、且つ親思いの少年であった。兄弟揃って剣道に優れて質実剛健の気風を身に着け、県や地域の剣道大会では盛三少年は優勝する腕前であった。但し家計は先代が事業に失敗した為、両親は多額の借財返済に追われる日々であったので、兄弟は皆進学を諦め三人の兄は陸軍士官学校に入校して軍人の道に進んでいた。盛三少年は旅順の師範学校（教員養成）に合格し、満洲に赴任する郷里の先生に同伴されて昭和十四年四月入校した。

昭和十六年の夏休みは郷里に帰省して農作業の手伝いや近所の少年達と遊び、帰校する時は神戸港まで見送りに付いて来た甥の明稔氏に大きな板チョコをプレゼントした（その味が忘れられないと証言）。昭和十八年八月卒業後、旅順の気風になじめず、内地に帰りたい気持ち強く、海軍の第十三期飛行予備学生募集に応募して合格した。

■ 海軍飛行隊に入隊

昭和十八年八月土浦海軍飛行隊に入隊、持ち前の根性・向学心を發揮し、剣道・銃剣術の技を磨いて同期生と共に心身を鍛錬する充実した日々であった。操縦術のコツも呑み込みが早く翌年の卒業時には少尉に任官すると共に教官補佐として、増え続ける飛行学生の育成に貢献した（推定）。

■ 特攻隊を志願

昭和十九年秋頃から戦況が日本に不利な情報が学生達にも直接届く様になり、特攻隊への志願が行われるとの雰囲気から安則少尉は早々に決心していたようだ。時期は不明であるが、この頃母堂は郷里に帰らない盛三氏を案じて土浦海軍飛行隊

に面会希望で訪れられた。その時、母堂に『僕は特攻隊に志願したので、生きて郷里に帰る事はありません』と明言されたようだ。（母堂は帰省後、夫にこの事を話され、そして他の誰にも話されることはなかった。推定証言）

昭和十九年十二月茨木県谷田部基地に第十三期・十四期生を主力とした特攻隊昭和隊が結成され艦上戦闘機等の実用機百三十機で操縦訓練が開始された。ここでも安則少尉は指導的役割を任つていたと考えられている。

昭和二十年 四月 鹿児島鹿屋基地に進出。

■ 郷土訪問飛行

この頃、海軍は特攻出撃が間近かになった隊員で長期帰省していない者に希望で郷土訪問飛行を認可していた。安則中尉も時期は四月下旬頃と思われるが郷土の家族と友人に永遠の別れを知らせる飛行に出発した。

機体は陸軍の高翼単葉九一式戦闘機改造の練習機であったと推定される。

家族には役場からの連絡で知らされた。甥の明稔氏は友人と日の丸及び旭日旗を手作りして迎えた。

午前十一時頃爆音高く低空で飛来し町の中心部を操縦席から身を乗り出して8字に飛行後、大き



郷土訪問飛行に使用された九一式中間練習機（推定）

な門を描く様に飛行して歓迎してくれた甥達への感謝と家族住民の方へ別れの合図である主翼を左右上下に動かし乍ら西の空に消えて行った。この間両親は家から出る事なく仏前に俯いていたとの事（証言）。

■空母バンカーヒルについて

艦名は一七七五年、英国からの独立戦争中、ボストン包圍戦で勝利を取めた戰場丘の名前。設計から制式空母として、建艦は一九四一年九月。進水は四二年七月。乗員約三千名、排水量三万六千屯、速力三十三ノット、積載可能航空機約百機。

■特攻出撃と突入状況

五月十日 鹿屋では菊水作戦発動の準備として偵察機を沖縄周辺の海域に派遣して空母を含む大艦隊を発見した。特攻隊司令官宇垣中将はこの艦隊は明日には、もつと九州に近づくと予想して特攻作戦を十一日に決行することにし、攻撃隊の編制が決まり安則中尉



特攻機を見送る早朝の鹿屋基地

は第七昭和隊第三小隊長として部下に小川清少尉・茂木忠少尉・篠原惟則少尉・高橋三郎少尉・血海彰一飛曹が配属された。

五月十一日 零戦各機に五百キロ爆弾を抱えて六時四十五分離陸、八時頃集合地点の沖永良部島上空を通過、進路を突入海域方向に設定、以後発見されない様、断雲を利用して縦隊で雲中飛行、九時二十一分「敵部隊（艦隊）見ユ」を発信、十時四分小川少尉が「敵空母見ユ」と発信。この後、安則中尉は「敵部隊見ユ」（敵空母に突入）の無線信号を最後に連絡は途絶えた。

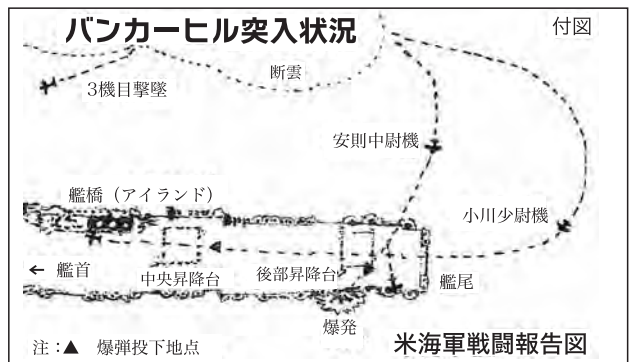
■突入状況 バンカーヒル乗組員の証言から

バンカーヒルの状況（付図参照）

この日、沖縄侵攻中の米陸軍から精強な日本軍が立て籠もっている丘が奪取出来ないで近接航空支援の要請があり、早朝から四十機の発艦準備に追われ、六時半発艦、支援終了後九時半着艦機を迅速に収容。引き続き二次攻撃の為、格納甲板内の四十七機の航空機に燃料満タン、爆弾装着、機銃弾装填作業等で多忙を極めていた。又、予備の各種爆弾も集積されていた。

更に兵員は度重なる特攻機の来襲警報で「総員戦闘配置に着け」が発令され、心身共に疲労していた。又、飛行甲板後部では三十機が発艦準備中で操縦士と機付き整備兵等が忙しく作業していた。そこに低い断雲から一機の航空機が現れ艦尾の方に飛行するので、兵士等は味方の航空機が着艦

するのか？と確認中、飛行を艦尾に向けた途端、特攻機と判明し、大騒ぎとなる中、安則機は急降下して爆弾を投下、後部昇降台付近に命中した。安



則機は飛行甲板後部に激突、少しバウンドして発艦準備中の航空機に次々と衝突して大火災を発生させ、最後はコルセア戦闘機を道連れにして左舷側から海面に落下、その際、艦尾左舷の銃座と連絡通路を破壊した。又、発生させた黒煙は艦尾対

空銃座の上空を覆い射撃手は熱風火傷となり、黒煙は射撃を不可能とした。結果として、三十秒後に突入した小川機が正確に投弾する状況を手助けする要因となった。

安則機が投下した爆弾は飛行甲板と格納甲板を貫通し、更に舷側板を突き破って海面に落下中に爆発した。その爆発で下方に飛んだ破片は海面下の艦体側面にも多数の破片孔を開け海水が流入、側面に飛散した破片は格納甲板内の航空機と消火設備等を破壊し、漏れた燃料に着火して火災が発生。上空に飛散した破片は舷側の対空銃架や連絡通路を吹き飛ばした。

■小川清少尉について

見事な操縦で爆弾を飛行甲板の中央部に投下し

た小川清少尉は群馬県碓氷郡八幡村（現・高崎市）で父錦次郎の五人兄姉の末っ子として大正十一年十月二十三日誕生。幼少の頃から可愛らしい明るく聡明な男の子であった。



学徒時代の小川大尉

昭和十六年 四月早稲田大学第二高等学
校に入學、翌年九月
早稲田大学政経学部
に進學。昭和十八年
十月学徒兵として横
須賀の武山基地に入
隊。飛行科の試験に

合格し昭和十九年三月土浦海軍飛行隊に入隊。同年五月谷田部基地に移動。練習機による厳しい操縦訓練を受ける。

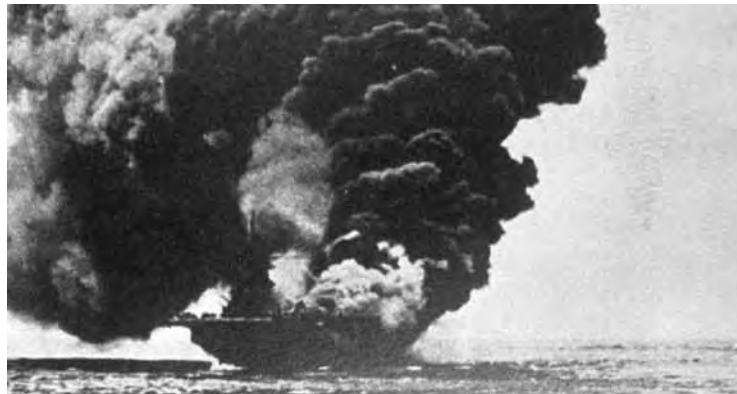
十二月転入して来た安則中尉と絆が生まれたと推測される。以後小隊長安則中尉の編成が度々変更されても小川少尉は変わっていないので共同訓練で意気投合していたと考えられる。

■ 小川機の突入状況

小川機は断雲から抜け出ると同時に「空母に突入」と打電し、母艦や護衛艦等から激しい対空砲火を浴びつつ巧みに空母の艦尾で背面ターンをし、飛行甲板を確認して投弾飛行姿勢の後、概ね甲板の中央付近に投下した。爆弾は飛行甲板・格納甲板を貫通した直後爆発し、飛行及び格納甲板で発艦準備中の全航空機を火災と誘爆で破壊した。

機体は投弾後、艦橋（アイランド）基部の甲板に激突した。その際、搭載予定で集積されていた爆弾を誘爆させ被害を増幅した。目撃者の証言か

ら機体は「彗星艦爆」と報告記録されたが、激突状態を撮った写真から零戦五二型と判明した。空母は乗組員の必死の消火作業と指揮官の厳格な命令でパニックを防止し、沈没は免れたが任務放棄



特攻機の命中で黒煙に包まれながら炎上中のバンカーヒル

特攻機二十六機が出撃し、二十五機が撃墜されたものの一機（第六筑波隊隊長富安俊介中尉）が制式空母エンタープライズ突入に成功し、同空母も致命的被害を受けて任務遂行不可となり本国に帰航した。

艦となり修理の為本国に帰航することとなった。後続の四機の内二機はバンカーヒルに突入を試みたが突入前に撃墜された。残りの二機も撃墜されたと思われるが不明。更に高速空母艦隊に對して、五月十四日、

安則少佐 辞世の二句

* はらからが 五人そろつて 旗のもと
一足先に 四男坊征く
* 幾度も 生まれ変わりにて 醜敵の
手を挙げるまで 御楯とぞなる
赤穂健兒

安則少佐の慰霊碑は郷里の狭い墓地の隅に、少佐の人柄を忍ばせる様に慎ましく建てられている。

■ 英霊 安則盛三少佐親族の願い

七十九年前、二十一歳の若者が故郷と父母を思い国難を救うために特攻隊員として出撃しました。現在の私達は英霊の思いを胸に刻み、悲惨な戦争の無い平和な世界が維持されるよう日々努力を続けて頂きたい。

参考文献 特攻 マクスウェル・ケネディ著
防衛省戦史叢書 大本営海軍部

取材協力 真相カミカゼ特攻 原勝洋著
安則明稔氏（八十九歳）安則真二氏

（文責 崇敬奉賛会理事 曾田孝一郎）

崇敬奉賛会会員募集

日本のために戦ってくれた

英霊を大事にしたいと思う人

先祖を敬う心を持っている人

見えないものを受け継いで

いきたいと思う人

奉賛会に入会して神社を

支えて下さい

我々と共に英霊に感謝し

そして汗をかき、

涙を流しましょう

奉賛会事務局

〒670-0012

兵庫縣姫路市本町118

電話 079-224-0896

<http://www.himeji-gokoku.jp/housankai/>



白鷺宮参集殿

ご親族のみでのご会食から
ご披露宴（～80名様）まで
専任プランナーが当日まで
サポートいたします

無料相談会開催中* 予約制

【婚礼受付相談室】TEL.079-224-0559

受付時間 / 10:00 ~ 19:00 (火曜定休)

E-mail. info@shirasaginomiya.com

※詳しくは婚礼専用HPにて



世界遺産姫路城を望む本格神前挙式
1日1組でごゆるりと……

美しき白鷺宮の結婚式

当社では祭典や各種行事、限定御朱印など神社に関する最新情報を
インスタグラム・フェイスブック・エックスを使用し発信しております。
下記QRコードよりどうぞアクセスしてください。

